

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成 22 年 1 月 15 日)

八佾第三

17 子貢 告朔の餼羊を去らんと欲す。子曰く、賜や、爾は其の羊を愛む。
我は其の礼を愛む。

子貢は孔門十哲のひとりで、年は 30 才くらい若かったようです。弁舌の立った人で、外交に手腕を発揮するとともに、商才に長け、門下で最も富んでいたと言われています。

告朔とは、毎月朔日（ついたち）に羊を備えて廟に告げるしきたりです。

子貢が告朔で羊を供える儀式をやめようとした。それを孔子が聞いて、「お前は、羊一匹をなぜ惜しむのだ。私は羊一匹を惜しむのではなく、伝統を伝える行事をやめてしまう事を惜しむのだ」と言っています。

羊一匹を惜しむが為に、ルールがなくなったら、世の中は秩序がなくなってしまうのではないか。昔から伝わっている伝統は守る方が良いと教えています。

小沢幹事長が今マスコミに叩かれています。小沢さんが中国に行くのは今回が初めてではなく、自分の心の中にそういうルールを作っていて、中国にはずっと朝貢に行っていたわけです。今年はたまたま日本で政権をとりましたから、それが大人数になって、しかも大人数になったことを誇示する為に、連れて行った議員と主席の写真を 1 枚ずつ撮るように頼んだので、マイナスのイメージが出てしまいました。小沢さんが朝貢を始めた頃は、相手にされなかったのです。それを定期的にずっと自分自身が決めたルールを守って続けていたわけですが、たまたま今年は世間に目を留められてしまった。小沢さんにしてみると、毎年やっていることなのに、何故今回は文句をつけられるのかとと思っているのでしょう。新年会も同じで、毎年毎年声をかけて集ってくる人たちと新年会をやっていたのに、今年だけ何故、カメラが入って自分を悪者扱いされるのかと感じているでしょう。

一つの決めたルールをずっとやり通している小沢さんというのは、その点で言えば、逆の意味ですが、たいしたものだと感じました。今の日本は情けないほどルールがどんどん廃れてくる状況で、しきたりという観点で見れば、小沢さんがスポットライトを浴びたのは悪くはないと思います。

18 子曰く、君に事えて礼を尽せば、人 以て諂うと為すなり。

君主に対して為すべき礼儀を尽くす。それに対して、人は媚びていると言う。孔子が風俗の衰えを嘆いています。

例えば家庭の中で、朝起きて子供が親に「おはようございます」と言い、親も「おはよう」と挨拶をする。これは昔はどここの家庭でもありました。最近は顔を合わせても挨拶をしない家庭が増えているようで、親に「おはようございます」と挨拶をすると、何か魂胆があるのではないかと兄弟に言われてしまう。

会社でも、普段挨拶をしないような人が急に挨拶をし、礼儀をきちんと尽くし始めると、上の人間に対して媚びているから何か魂胆があるのだらうと思われる。挨拶をすることによって媚びていると思われるような風潮が広がっているのは、ちょっと悲しい国だなと感じてこの文章を読みました。

小沢さんの話に戻りますと、天皇陛下に対して中国の副主席との面会を強要したのであれば、まるっきり主君蔑視の風潮で、逆の形の動き方をしたなと感じます。

19 定公問う。君 臣を使い、臣 君に事うること、之を如何にせん。孔子対えて曰く、君 臣を使うに礼を以てし、臣 君に事うるに忠を以てすと。

定公が孔子に尋ねました。

「自分は君主としてどのように家臣たちを使えばよいのか。家臣はどう君主に仕えればよいのでしょうか」

孔子が答えました。

「主君は家臣を使うのに、礼の定めに従って丁重に扱うよう心がけること。家臣が主君に仕える時には、真心をもって仕える。そうすれば国は定まってくるでしょう」

定公は昭公の弟です。国が乱れてどうにもならない時に君主の位置にいました。自分が君主としてやるべき事もやらないし、やれないし、困ったものだと思いつつ、どうすれば良いのか孔子に聞いたわけです。

これを民主党で眺めてみると、読みながら自分で笑ってしまいました。民主党のキーは誰なのか。鳩山さんでしょうか、小沢さんなのでしょうか。定公の場合も、家臣たちの力が強くて、日本の下剋上のような状況でした。今の鳩山さんは、たまたま廻り合わせで総理大臣のポストが転がり込んで来ました。どういうふうに分の部下である（と思われる

いる)人達を使えばよいのか、大臣をどのように使えばよいのかまるで分からない。だから誰かに聞かなければと思うけれども、誰に問えばよいのか分からない。この文章を読んで、そう感じました。